

CASBEE広島における重点項目の環境配慮設計概要

安田女子大学 新1号館

CASBEE広島 2013年追補版Ver.2(BPI/BEI対応)

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

配慮項目	評価点	重み係数	内 訳			
■1.「地球温暖化対策」の推進						
1.1 建物の熱負荷抑制						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください low-Eガラスの採用等によるPAL低減率35%以上	3.0	0.19	Q1 室内環境	2 温熱環境	2.1 室温制御	3 外皮性能
	0.0	0.00				
	5.0	0.81	LR1 エネルギー	1 建物の熱負荷抑制		
小計	4.6	0.19				
1.2 自然エネルギーの利用						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください トップライトの採用、アトリウムと連携した換気システム	0.0	0.00	LR1 エネルギー	2 自然エネルギー利用	2.1 自然エネルギーの直接利用	
	3.0	1.00	LR1 エネルギー	2 自然エネルギー利用	2.2 自然エネルギーの変換利用	
小計	3.0	0.10				
1.3 設備システムの高効率化						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。□ ERR値35%以上を達成	5.0	1.00	LR1 エネルギー	3 設備システムの高効率化		
小計	5.0	0.16				
1.4 設備システムの効率的運用						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください 各種エネルギー消費量の消費原単位を用いたベンチマーク比較が行える	3.0	0.50	LR1 エネルギー	4 効率的運用	4.1 モニタリング	
	3.0	0.50	LR1 エネルギー	4 効率的運用	4.2 運用管理体制	
小計	3.0	0.10				
1.5 資源・マテリアル対策						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。□ 節水コマの採用、再利用できるユニット部材の採用	3.0	0.08	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.1 節水	
	3.0	0.08	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.2 雨水利用・雑排水再利用	1 雨水利用システム導入の有無
	3.0	0.04	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.2 雨水利用・雑排水再利用	2 雑排水再利用システム導入の有無
	4.0	0.06	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.1 材料使用量の削減	
	3.0	0.19	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.2 既存建築躯体等の継続使用	
	3.0	0.16	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	
	3.0	0.16	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	
	2.0	0.04	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.5 持続可能な森林から産出された木材	
	4.0	0.19	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	
小計	3.2	0.31				
1.6 ライフサイクルCO2排出率						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください ライフサイクルCO2概算値での排出率69%	4.2	1.00	LR3 敷地外環境	1 地球温暖化への配慮		
小計	4.2	0.13				
1.「地球温暖化対策」の推進の評価	3.9	0.72				
■2.「ヒートアイランド対策」の推進						
2.1 温熱環境の向上						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 緑の量、質の確保	2.0	0.49	Q3 室外環境(敷地内)	1 生物環境の保全と創出		
	2.0	0.24	Q3 室外環境(敷地内)	3 地域性・アメニティへの配慮	3.2 敷地内温熱環境の向上	
	2.0	0.27	LR3 敷地外環境	2 地域環境への配慮	2.2 温熱環境悪化の改善	
小計	2.0	0.96				
2.2 交通負荷抑制						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 駐車場、駐輪場の確保	3.0	1.00	LR3 敷地外環境	2 地域環境への配慮	2.3 地域インフラへの負荷抑制	3 交通負荷抑制
小計	3.0	0.04				
2.「ヒートアイランド対策」の推進の評価	2.0	0.18				
■3.「長寿命化対策」の推進						
3.1 耐用性の向上						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 建築基準法に定められた25%増の耐震性、耐用年数が短いと想定される系統の90%以上のダクト材をガルバリウム鋼板製、機械・配管支持方法がAランク	4.0	0.47	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.1 部品・部材の耐用年数	1 耐震性
	3.0	0.12	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.1 部品・部材の耐用年数	2 免震・制振性能
	3.0	0.09	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	1 躯体材料の耐用年数
	4.0	0.09	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔
	5.0	0.04	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔
	5.0	0.03	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	4 空調換気ダクトの更新必要間隔
	3.0	0.06	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	5 空調・給排水配管の更新必要間隔
	3.0	0.09	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	6 主要設備機器の更新必要間隔
小計	3.7	0.70				
3.2 設備の更新性						
(コメント) ※設計の計画段階に配慮した事項を記載してください。 構造部材を痛めることなく、更新・修繕が行える	3.0	0.17	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	1 空調配管の更新性
	3.0	0.17	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	2 給水配管の更新性
	3.0	0.11	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	3 電気配線の更新性
	3.0	0.11	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	4 通信配線の更新性
	3.0	0.22	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	5 設備機器の更新性
	3.0	0.22	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	6 バックアップスペース
小計	3.0	0.30				
3.「長寿命化対策」の推進の平均点(上記2項目)	3.5	0.10				
■重点項目の総平均(上記3項目)	3.5					